

専攻主科目名

消化管内科学

◆問合わせ連絡先 担当：第三内科学講座 小尾俊太郎

E-mail obi.shuntaro.vc@teikyo-u.ac.jp

TEL 0476-62-1211（内線・モバイル：508）

HP（研究室・診療科） http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~chiba/01_shinryo/0102_syokaki/

1. 教員・スタッフ紹介

メインメッセージ：

私たちのミッションは「すべての『人』に向けて、診療・教育・研究を通じて
明るい未来を創造すること」

帝京大学大学院医学研究科 教授

小尾 俊太郎 M.D., Ph.D.

帝京大学医学部卒、東京大学医学博士
東京大学第二内科・消化器内科、旭中央病院、公益財団
法人佐々木研究所付属杏雲堂病院で研鑽を積む。専門は
肝臓治療、インターベンショナルラジオロジー。

“困っている人を助ける”を確固たる信念とし、すべての
「人」の明るい未来を、教育・臨床・研究を通じて共に
創造します。

内科(消化器)・光学診療部体制

強固な多職種連携をベースに、きめ細やかな指導体制を構築しています

講師

佐藤 隆久

助手

高村 尚樹

助手

高橋 健太郎

光学診療部 専従スタッフ：

内視鏡看護師 11名 / 内視鏡事務 4名 / 滅菌スタッフ 4名

安心の学位取得実績：

・当教室の身近な指導役である高村助手、高橋助手の両名とも、『帝京医学雑誌』に学位論文が掲載され、今年度中に博士号（医学博士）の取得を目指しています。在学中から手厚い執筆・投稿指導体制が確立されています。

2. 研究室・診療科の特色



最先端の高度内視鏡・光学治療環境

中核医療機関として抜群の検査・治療件数を誇り、最新データベース「JED (Japan Endoscopy Database)」に加入。**安全性と先進性を両立**させた理想的な環境です。



「知る喜び、出来る喜び」に根ざした教育

初期・後期研修医、そして大学院生まで、確実な手技獲得と理論的な解釈を段階的にサポート。「**独り立ち**」を徹底的に支援します。



有機的な多職種ワンチーム体制

医師、熟練の内視鏡専門看護師、事務、滅菌スタッフで構成される「光学診療部」が極めて円滑で高効率な診療現場と**温かい指導環境**を作ります。



地域密着かつグローバルに開かれた臨床

天寿を支えるシームレスな地域包括医療連携を実践しつつ、最先端の学術成果を世界へと継続的にアピールする、**ローカルとグローバルが直結**した研究室です。

3. 主な研究内容

臨床トリアージ・予後予測

高齢者消化管出血におけるトリアージ検証

高齢者潰瘍出血における「GBS（Glasgow-Blatchford Score）」や「AIMS65」といった既存指標の有効性と実臨床での予後との関連を検証。実証に基づいた標準医療を創出しています。

がん免疫療法・ゲノム解析

肝細胞癌の逐次薬物療法と遺伝的多様性の解明

切除不能肝細胞癌に対するAtezo+Beva等の薬物療法における肝機能維持効果や、ゲノム多様性解析（Genomic Diversity）に立脚した腫瘍局所ごとの治療戦略など、最先端薬物療法を開拓。

先進多施設連携

山梨県立中央病院を筆頭とする高度共同研究

「がん診療連携拠点」および「ゲノム医療連携」を兼ね備える山梨県立中央病院等との強固なアライアンスを活かし、広範かつ質の高い臨床データベース研究を推進します。

日々の豊富な臨床疑問（Clinical Question）を、**教授らの伴走**のもとで確かな研究業績へと昇華させます。

4. 大学院生のキャリアパス（未来への確かなロードマップ）

1 「学位取得」と「各種専門医」の同時取得を完全にサポート

豊富な症例を通じて磨かれる確かな**臨床スキル**と**マネジメント力**は、将来の「開業」や「クリニックの継承」の準備として最適な環境です。

2 グローバルな活躍への扉

アジア太平洋肝臓学会（APASL Oncology 2026 Tokyo : 22ヶ国、407名参加）を主導した当教室だからこそ、国際学会での発表経験や**グローバルな視野**も身につきます。

3 目指せる未来

指導的医師（大学でのキャリアアップ）はもちろん、地域医療のリーダー、そして**実践力**のある開業医・継承医を輩出します。

専門医・学位取得 × 開業・継承への最適ルート